

術中麻酔管理領域の特定行為研修者の研修の流れ（案）

（日本麻酔科学会による術中麻酔管理領域の特定行為修了証交付が許可される場合を想定）

2019年3月31日
日本麻酔科学会周術期特定行為群
研修企画部会・研修プログラム作成WG
部会長・WG長：齋藤 繁
担当委員：長坂安子

1. 緒言

厚生労働省平成27年度看護職員確保対策特別事業の一環として平成30年度より術中麻酔管理領域に特化した特定行為の研修制度を日本麻酔科学会が作成することが決定された。

2. 目的

日本で麻酔を受ける患者の安全のため、また麻酔科学の発展と拡充のために、周術期における特定行為研修の流れとその内容を日本麻酔科学会が制定する。

3. 研修の流れ

1) 【研修対象】

急性期領域（手術室・集中治療室・救急部）における臨床経験を2年以上有する**特定**看護師で、日本麻酔科学会周術期管理チーム認定看護師資格取得をした者

理由：急性期領域の看護経験が麻酔業務に携わる上で必須とした。年数に関しては、最低でも周術期管理チーム認定看護師資格の取得要項を満たすことが必要と考え2年とした。

日本麻酔科学会周術期管理チーム認定看護師資格を求める理由は、麻酔科の医師は厚生労働省が標榜医制度設けているほどに特殊な分野であり、医師であれば誰でも標榜してよい診療科ではない。同様に、看護師も臨床経験さえあれば術中麻酔管理領域の特定行為研修を受講すれば麻酔管理業務に携わることができるものではないという認識による。

2) 【研修内容：座学・演習・実習】

2)-1 *** 日本麻酔科学会周術期特定行為群研修企画部会・研修プログラム作成案をここに挿入***

以下厚生労働省の求める研修パッケージを転記した。

1. 共通科目（2018年12月17日版では250時間に短縮された）

臨床病態生理学（講義・演習）

臨床推論（講義・演習・実習（医療面接））

フィジカルアセスメント（講義・演習・実習（身体診察手技））

臨床薬理学（講義・演習）

疾病・臨床病態概論（講義・演習）

医療安全学（講義・演習・実習（医療安全））

特定行為実践（講義・演習・実習（チーム医療））

2. 区分別科目：66 時間（6 区分 8 行為）

呼吸器（気道確保に係るもの）関連

経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整

呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連

侵襲的陽圧換気の設定の変更

人工呼吸器からの離脱

動脈血液ガス分析関連

直接動脈穿(セン)刺法による採血

橈(トウ)骨動脈ラインの確保

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

脱水症状に対する輸液による補正

術後疼痛管理関連

硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

循環動態に係る薬剤投与関連

持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整

3. 症例：区分別科目 8 行為につき各 5 症例

解説：日本麻酔科学会周術期管理チーム認定看護師資格取得者が研修をおこなうことを日本麻酔科学会として必須と定義することが前提となる。以下表 1 に記す我が国の麻酔に特化した看護師の研修制度を修了した者については、受講免除規定を設けた。

3) 【研修に追加すべき内容】

研修修了後に、日本麻酔科学会による修了試験を受験する

研修中に患者に合併症が発生したときの対応と研修時の責任範囲を明記すること

対象患者にインフォームドコンセントをおこなう（廣瀬先生案）

理由：特定行為研修パッケージは主に手技に特化した研修内容である。在宅や病棟のように患者の変化する時間がより長い部署、あるいは救急部のように何割かの重症患者はそれ以上の改善が期待できない、あるいは特定行為によるリスクが十分に認知されている部署での業務とちがひ、ほとんどの麻酔業務は予定手術であり 100%に近い安全性が求められる。麻酔中の特定行為は、該当疾患に対する処置ではないため、麻酔中の合併症は麻酔管理によるものであると認識されることが多い。このため、研修中に合併症が発症した時の対応とインフォームドコンセントは日本麻酔科学会が研修のながれを規定するうえで最も重要である。

4) 【術中麻酔管理領域領域特定行為修了証】

日本麻酔科学会による修了試験合格した者に授与する。
 修了証は、日本麻酔科学会で管理する通し番号を記載する。
 指定研修機関長（病院長）とその指導医師名、そして麻酔科学会理事長名の連名の発行とする。

【研修修了者の登録】

修了合格者の登録は日本麻酔科学会でおこない、総数の把握と勤務先、勤務内容他項目を設定し更新規定に盛り込む。

理由：麻酔科の医師は厚生労働省が標榜医制度設けているほどに特殊な分野であり、医師であれば誰でも標榜してよい診療科ではない。同様に、看護師も臨床経験さえあれば術中麻酔管理領域の特定行為研修を受講すれば麻酔管理業務に携わることができるものではないという認識による。

5) 【研修修了者の更新】

5 年毎の申請

更新要件：

日本麻酔科学会学術集会参加歴：必要ポイント数の制定

日本麻酔科学会の主催するリフレッシャーコース受講歴：必要ポイント数の制定

診療実績届け：術中麻酔管理領域における特定行為の更新は、診療実績として麻酔のはじめからおわりまで携わった年間症例数が 100 例以上

（理由：臨床能力維持のために、週 1-2 日手術室にて 1 日 1-2 件の麻酔を担当することが目安とした）

理由：麻酔科学は日進月歩であるため、すでに習得した手技だけでなく新しいエビデンスを身につけておく必要がある。質の担保のために、日本麻酔科学会による定期的な更新が必要とした。

表 1. 我が国の麻酔に特化した看護師の研修制度の比較（2019 年 3 月 31 日現在）

研修修了者の名称	術中麻酔管理領域における特定行為（案）	周術期管理チーム看護師	手術看護認定看護師	特定行為研修修了者	麻酔科日本版 NP	日本周麻酔期看護師
創設	2019 年	2014 年	2004 年	2015 年	2011 年	2010 年
団体	日本麻酔科学会	日本麻酔科学会	日本看護協会	日本看護協会、各指定研修機関	日本 NP 教育大学院協議会	日本周麻酔期看護医学会

研修 の正 式名 称	未定	周術期管理 チーム認定 制度	認定看護 師	急性期周 術期コー ス	大学院修 士課程	大学院 修士課 程 周 麻酔期 看護学
特定 行為	○	予定	予定	○	○	予定
研修 期間	6ヶ月-1 年	なし (試験の み)	6ヶ月	6ヶ月-1 年	2年 大学院修 士課程	2年 大学院 修士課 程
研修 内容	座学・演 習・実習 (座学の 一部はe- learning 受講)	セミナー受 講、学会参 加	講義、実 習	座学・演 習・実習 (座学の 多くはe- learning)	大学院教 育(全診 療科)、 座学・演 習・実習	大学院 教育 (麻酔 科学に 特化)、 座学・ 演習・ 実習
応募 要件	日本麻酔 科学会周 術期管理 チーム看 護師であ ること	看護師で2 年以上の手 術室、周術 期管理セン ター勤務	看護師で 3年間の 手術室勤 務(看護 師5年以 上)	看護師で 5年以上 の看護経 験	看護師で 5年以上 の看護経 験	看護師で2 年以上の 急性期 領域勤 務
資格 取得 方法	日本麻酔 科学会に よる修了 試験合格	認定試験	認定試験	修了試験	大学院修 士課程終 了 + 認定試 験	大学院 修士課 程終了
研修 教育 機関	日本麻酔 科学会周 術期特定 行為群研 修企画部 会・研修 プログラ ム作成案 をここに 挿入	日本麻酔科 学会、日本 手術看護学 会	2 機関 (2019 年4月1 日現在) 学校法人 兵庫医科 大学医療 人育成研 修センタ ー認定看 護師教育	特定行為 区分：呼 吸器<気 道確保> の研修実 施指定機 関数は全 国39機 関。 2018/8 現在医政	9 大学 院：日本 NP教育 大学院協 議会HP より(愛 知医大、 東京医療 保健、大 分県立看 護、国際	大学 院：聖 路加国 際大学、 横浜市 立大学、 信州大 学他

			課程、東京女子医科大学看護学部認定看護師教育センター	局・看護課調べ（自治医科大学、奈良県立医科大学、滋賀県立医科大学他）	医療福祉大学他）	
総数	未定	1709名 （2018/4/1の時点で）	591名登録 （2018/7の時点で）	506名 （特定行為区分：呼吸器＜気道確保＞の研修修了者数：2018年3月第18回看護師特定行為・研修部会資料より）	情報なし	22名以上
実際に働く医療機関	日本麻酔科学会が求める条件：日本麻酔科学会麻酔研修指定病院（必須）で、日本麻酔科学会麻酔専門医・指導医の直接指示が受けられる医療機関	情報なし	全国 572 病院、1 診療所、5 学校・大学等。	情報なし	情報なし	聖路加国際大学、横浜市立大学、信州大学、鳥取大学、九州地方の病院他

	(必須)とする					
術中麻酔管理領域領域における特定行為についての受講免除規定		受講必須	受講必須	区分別科目のみ受講必須(共通項目は免除)	研修内容は、2年間の大学院修士課程の教育内容に含まれているため、ほぼすべて講習を受講免除とする(理由:乗り換え事項表 2-1、2-2を参照)	
更新方法	5年毎更新更新要件: 日本麻酔科学会 学術集会 参加歴 日本麻酔科学会 の主催するリフレッシャー コース受講歴:必要ポイント数の 制定 診療実績届け: 麻酔のはじめからおわりまで携わっ	3年毎の申請(セミナー受講、手術看護学会参加歴)	5年ごとに更新(看護実践と自己研鑽の実績について書類審査)	なし	5年毎に更新(診療実績2000時間、社会活動ポイント50点)	日本周麻酔期看護学会年次集会への出席(奨励)今後資格認定を設定する予定

	た年間症 例数が 100 例以 上、5 年 間で 500 例以上で あること (案)					
--	---	--	--	--	--	--

表 2：研修プログラムと周麻酔期看護学の大学院修士課程に履修する講義・実習・演習内容の比較（川口先生・内藤先生案に追記）

表 2-1：共通科目

共通科目	学ぶべき事項	日本麻酔科学会周術期特定行為群研修企画部会・研修プログラム作成案（川口先生・内藤先生案を用いています）	例：日本周麻酔期看護師シラバス（聖路加国際大学版）
		規定時間	規定時間
臨床病態生理学	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	30	30 聖路加大学院シラバス： 病態生理学
臨床推論	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診断のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 医療面接の理論と演習・実習 4. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/病理検査/微生物学検査/生理機能検査/その他の検査 5. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/超音波検査/CT・MRI/その他の画像検査 6. 臨床疫学の理論と演習	45	144 聖路加大学院シラバス： 診断・治療学： 30 時間、看護学研究法：30 時間、周麻酔期看護学特論、演習 ：84 時間
フィジカルアセスメント	身体診察・診断学（演習含む）を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱/泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系	45	48 聖路加大学院シラバス： フィジカルアセスメント：30 時間、周麻酔期看護学演習 ：18 時間

	<p>3. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者</p> <p>4. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療</p>		
臨床薬理学	<p>薬剤学、薬理学を学ぶ</p> <p>1. 薬物動態の理論と演習</p> <p>2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習</p> <p>3. 主要薬物の相互作用の理論と演習</p> <p>4. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習</p> <p>年齢による特性（小児/高齢者）を含む</p>	45	60 聖路加大学院シラバス： 臨床薬理学：30時間、周麻酔期看護学特論、演習：30時間
疾病・臨床病態概論	<p>主要疾患の病態と臨床診断・治療を学ぶ</p> <p>主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論</p> <p>循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神系/運動器系/感覚器系/感染症/その他</p>	30	30 聖路加大学院シラバス： 診断・治療学：30時間
	<p>状況に応じた臨床診断・治療を学ぶ</p> <p>1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習</p> <p>2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習</p>	10	18 聖路加大学院シラバス： 周麻酔期看護学演習：18時間
医療安全学	<p>特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ</p> <p>1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証（Quality Care Assurance）を学ぶ</p> <p>医療倫理 医療管理 医療安全 ケアの質保証</p>	45	51 聖路加大学院シラバス： 生命倫理：30時間、周麻酔期看護学特論：9時間、演習：12時間 （特定行為関連は一部補習必要：左第3、4項目）

	<p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践（Inter Professional Work (IPw)）（他職種との事例検討等の演習を含む）を学ぶ</p> <p>チーム医療の理論と演習・実習 チーム医療の事例検討 コンサルテーションの方法 多職種協働の課題</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ</p> <p>特定行為関連法規 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ</p> <p>手順書の位置づけ 手順書の作成演習 手順書の評価と改良</p>		
--	--	--	--

表 2-2：区分別科目

					日本麻酔科学会周術期特定行為群研修企画部会・研修プログラム作成案（川口先生・内藤先生案を用いています）	例：日本周麻酔期看護師シラバス（聖路加国際大学大学院修士課程版*）		
	講義時間(試験含む)	演習時間	実習時間	合計	規定時間(座学)	症例数	規定時間(座学)	症例数
A. 気道確保	9	1	5	15	9 時間	5 症例	15 時間(シラバス該当項)	18 時間(演習)演習に

							目：周 麻酔期 看護学 特論 (3hx1 回) (3hx1 回) (3hx1 回) 演習 6hx1 回)	て54 症例、 実習に て10 症例以 上(シ ラバス 該当項 目：周 麻酔期 看護学 演習 6hx1 回・ 6hx1 回・ 6hx1 回、実 習-周麻 酔期看 護学)
B.人工 呼吸	17	2	10	29	17 時間	10 症例	27 時間 (シラ バス該 当項 目：周 麻酔期 看護学 特論 3hx1 回・ 3hx1 回・ 3hx1 回・ 3hx2 回回、 演習 6hx2 回)	18 時間 (演 習) 演習に て36 症例、 実習に て10 症例以 上(シ ラバス 該当項 目：周 麻酔期 看護学 演習 6hx1 回・ 6h x2 回、 実習-

								周麻酔期看護学)
C. 動脈 穿刺	13	2	10	25	13 時間	10 症例	21 時間 (シラバス該当項目：周麻酔期看護学特論 3hx1、演習 6hx1回・6hx1回・6hx1回)	演習実習シラバス該当なし
D. 栄養	10	1	5	16	10 時間	5 症例	12 時間 (シラバス該当項目：周麻酔期看護学特論 3hx1回・III 3hx1回、演習 6hx1回)	12 時間 (演習) 演習にて 24 症例、実習にて 20 症例以上(シラバス該当項目：周麻酔期看護学演習 6hx1回・6hx1回、実習-周

								麻醉期 看護 学)
E. 硬膜 外	8	1	5	14	8 時間	5 症例	9 時間 (シラ バス該 当項 目：周 麻醉期 看護学 特論 3hx1 回・ 3hx1 回・ 3hx1 回)	6 時間 (演 習)演 習にて 12 症 例、実 習にて 10 症 例以 上 (シラ バス該 当項 目：周 麻醉期 看護学 演習 6hx1 回、実 習-周 麻醉期 看護 学)
F.循環 薬物	10	1	5	16	10 時間	5 症例	15 時間 (シラ バス該 当項 目：周 麻醉期 看護学 特論 3hx1 回・ 3hx2 回、演 習 6hx1 回)	12 時間 (演 習)演 習にて 24 症 例、実 習にて 20 症 例以 上(シ ラバス 該当項 目：周 麻醉期 看護学 演習

								6hx1 回・II 6hx1 回、実 習-周 麻醉期 看護 学)
G. 共通	10	0	5	15			39 時間 (シラ バス該 当項 目：周 麻醉期 看護学 特論 3hx2 回・IV 3hx6 回・ 3hx1 回、演 習 6hx2 回)	42 時間 (演 習) 実習に て50 症例以 上(シラ バス 該当項 目：周 麻醉期 看護学 演習 6hx4 回・ 6hx3 回、実 習-周 麻醉期 看護 学)
合計	77	8	45	130			138	108

*聖路加国際大学大学院での「実習-周麻醉期看護学」は 270 時間が履修されているが上記表 2-2 には症例数のみ記載した。

以上